

日本の里地里山30コンテスト

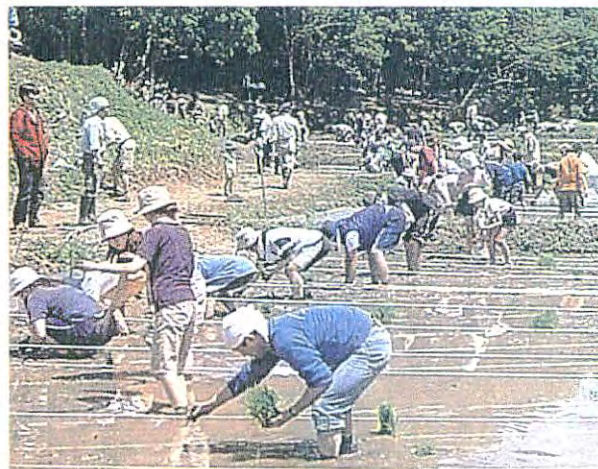
県内から2団体選出

里地里山の保全に取り組む団体を表彰する「日本の里地里山30コンテスト」(読売新聞社主催、環境省共催)に、本県から、「アサザ基金」(事務局・牛久市)と、「宍塚の自然と歴史の会」(同・つくば市)の二つのNPO法人が選ばれた。喜びの声や活動ぶりを紹介する。

環境団体の先頭行く

アサザ基金

「一百年後には、トキが住める霞ヶ浦に」と、一九九五年の発足時から推進するアサザプロジェクトは、活動範囲が霞ヶ浦流域全域に及び、これまでに約八万人が参加する大きなうねりとなった。一九九九年にNPO法人となり、現在の会員数



荒れ地を田んぼによみがえらせよう
と行われた田植え(石岡市東田中で)

は約五百人。環境団体のトップランナーともいえる存在だ。放置された雑木林の下草刈りや間伐などをするボランティア活動「一日きのこり」のほか、産業や教育との連携も深めており、間伐材などを使い、漁礁にも

地場産業、小学校など、社会全体で里山を守っていこうという動きを評価している。

地元と連携 多彩な活動

宍塚の自然と歴史の会

受賞の知らせに、「一里山の保全活動は、人々に目を向けてもらわなくては成り立たない。選ばれたことで社会に伝える機会が生まれ、うれしい」と及川ひろみ理事長は語る。

土浦市宍塚に広がる約百畝の里山に開発計画が持ち上がった一九八〇年代後半、住民らが勉強会を始め、八九年に同会が発足した。区長から許可をもらって森の下草刈りや自然観察会などを行い、次第に地元とのかわりが増えた。



里山の自然観察に訪れた児童ら(土浦市宍塚で)

会員数も増加、現在は約五百九十八人による。九二年から九四年にかけてもあって注目されるようになった。

会の活動は、観察会や農家支援、歴史部会、子ども探偵団、田んぼ塾など多岐にわたり、会報「五斗蒔」などより「やホームページ」などで逐一紹介されている。及川理事長は「未来を引き継ぐ子供たちに自然の大切さを理解してもらいたい」と話している。